平成２１年度学生支援プロジェクト事業成果報告書

学生主催の救急蘇生講習会

BLS & ICLS　～香川大学から地域市民へ～

香川大学 ACLS 勉強会 代表　鈴木　健太（医学部医学科 4 年）

１．目的と概要

心停止時の救急蘇生のトレーニングコースである「BLS[*1]」および「ICLS[*2]」を、学生が自主性をもって広める。特に「BLS」に関しては一般市民を対象とした講習会を行い、いざというときに救命処置を行える一般市民を一人でも多くし、以って香川県の救命率向上に貢献する。

BLS[*1]　; Basic Life Support(一次救命処置)の略称。
特別な道具や技術を必要としない一般市民が実施できる救命処置。

ICLS[*2]　; Immidiate Cardiac Life Support の略称。
ALS(Advanced Life Support;二次救命処置)の一部。
医療従事者が行う高度救命処置。

２．実施期間（実施日）

今年度の活動内容は以下のとおりです。「第〇回」と付してあるのは、2 時間の講習会を実施できたものであり、「第〇回」付していないものは講習時間 1 時間程度の短縮版講習会、ないしは簡単な救急蘇生の紹介を行ったことを示します。

【一般市民向け講習会】

2009 年 5 月 30 日　第 6 回一般向け BLS 講習会
「三木フットサル協会」様を対象に開催

2009 年 6 月 30 日　第 7 回一般向け BLS 講習会
「大川商工会」様を対象に開催

2009 年 7 月 26 日　第 8 回一般向け BLS 講習会
「坂出市まんでがんキャンプスタッフ」様を対象に開催

2009 年 8 月 7 日　医学部オープンキャンパスにて救急蘇生法を講習
（香川大学医学部学務室からの依頼により）

2009 年 8 月 21 日　香川大学サークルリーダー研修会にて救急蘇生法を講習
（香川大学学生生活支援グループからの依頼により）

2009 年 8 月 23 日　第 9 回一般向け BLS 講習会
「さぬき市国際交流を暖める会」様を対象に開催

2009 年 10 月 9 日　香川大学医学部祭にて AED の展示と救急蘇生法を講習
2009 年 11 月 15 日　糖尿病プロジェクトイベントにて救急蘇生の紹介
（当該イベントを主催する事務局より依頼）
2009 年 11 月 22 日　「綾川健康の会」様へ救急蘇生法を講習
2009 年 12 月 25 日　第 10 回一般向け BLS 講習会
「香川大学農学部防災訓練」にて開催
2010 年 1 月 31 日　第 11 回一般向け BLS 講習会
「県教育委員会主催プロジェクト Y」にて開催
2010 年 2 月 14 日　「前山地区防災訓練」にて救急蘇生法を講習

【医学部生向け講習会】
2009 年 7 月 19 日　第 8 回医学部生向け ICLS 講習会を開催
2009 年 12 月 20 日　第 9 回医学部生向け ICLS 講習会を開催

３．成果の内容及びその分析・評価等

今年度は昨年度を越える6回の一般市民向けBLS講習会を開催することができました。この数には、簡単な救急蘇生法の講習、及び AED の紹介などは含まれておりませんので、それらも加えると、10 回を越える講習を行ったことになります。同時に香川大学学生 ACLS 勉強会の中心的活動である ICLS 講習会を継続し、インストラクター間での勉強会も積極的に行ってきたため、受講生の方々には最新の情報を提供できたのではないかと考えております。本報告書では、今年度開催した BLS 講習会のいくつかについて、報告させていただきます。

7 月 26 日は、坂出市「まんでがんキャンプ」にスタッフとして参加する中高生及び大学生 13 名を対象に BLS 講習会を開催いたしました。このときの受講者の方々は「スタッフ」としての責任感からか、実際の現場を想定した多くの質問があり、非常に盛りあがった講習会となりました。私達インストラクターにとっても、自身の持てる知識が確かなものか自己内省するよい機会となりました。

【インストラクターと受講者】

8 月 21 日は「香川大学サークルリーダー研修会」にて BLS 講習会を行いました。これは香川大学の学生生活支援グループ様からの依頼によって実現したもので、受講者の方は香川大学内のサークルのリーダー（代表者）総勢約 90 名弱と大規模な講習会となりました。一度に全員に講習することは不可能と考え、受講者を 3 グループに分け時間をずらすことで受講者全員の実習時間を確保しました。インストラクターは 8 名で対応させ

ていただきましたが、普段 2 時間で教えている内容をわずか 45 分で教えるという時間的な制限、そしてそれを 3 回行うということで、最後のグループの指導が終わった時点でのインストラクターの疲労は、それが目に見えて分かる程でした。インストラクターたるもの、どんな状況でも持てる技術をフルにアウトプットできなければならないことは必然ですが、それでもやはり、疲れていてはそれが実現できなくなる可能性が高くなってしまいます。こうした観点から、講習会の質を維持するためのマネージメント方法を考え直す必要性を感じた講習会となりました。

【救急蘇生手技を体験する受講生】

年が明けた 1 月 31 日には、県教育委員会が主催する青年教育指導者セミナー「プロジェクト Y」に参加された一般成人 18 名に指導させていただきました。このときの受講者の方々は、香川県各地に展開する青年会に所属されており、今後さらに香川県の各地で BLS 講習会を開催する上での足がかりになったのではないかと考えております。

【はじめて AED に触れる受講生】

以上、簡単ではありますが、今年度開催した講習会の大まかな概要です。数多くの救急蘇生講習会を通して感じたことは、一般の方々は救急蘇生（特に AED）への関心が非常に高くそうした講習会を必要としていることです。多くの人が集まるような公共の場への AED の設置が進み、現在ではより一般市民が使いやすいように改良された AED も設置されるようになってきております。そうした流れの中で、「忘れかけた救急蘇生を思い出したい」「AED に一度は触れておきたい」ということで、講習会を受講する方が増えているように感じます。受講者の中には「別の職場や会などでもう一度救急蘇生講習会をやって欲しい」と依頼してくださる方もいらっしゃいます。

学生が救急蘇生を教えていることに関しては、講習会終了後のアンケートの回答が参考になると思います。「学生のインストラクターだと質問がしやすい」「少人数なので、実技が十分できる」といったものが多く、さらに学生の指導力・知識面についても「分かりやすかった」「質問にすぐ答えてくれた」などの肯定的な意見がほとんどでした。私達学生が開催している講習会が受講者の需要に十分こたえられるものになっているのではないかと、考えております。

４．この事業が本学や地域社会等に与えた影響

私達が開催している講習会は基本的に少人数を対象としているため、救急蘇生を実施できる一般市民の数が急に増えることはありません。しかしながら、一昨年の 3 月より草の根運動的に始まった一般市民向け BLS 講習会も、今年 2 月で 11 回を数えることになり、教えさせていただいた一般市民の数も 200 名を越えます。AED の紹介などの短縮版の講習会も含むとその数は 300 名をゆうに越え、少しずつではありますが、救急蘇生を香川県に広めることができていると考えております。さらに、今年度は私達の活動をテレビやラジオで数多く取り上げていただくことができ、「香川大学の学生が救急蘇生を広めている」ということを一般市民に知ってもらうきっかけになったと思います。実際、こうしたマスメディアや口コミを受けて、ご依頼をくださるケースが最近多く、こうした学生の活動に興味のある地域の方々と繋がっていくことは、今後地域で救急蘇生の輪を広めていく際に重要になると思います。こうした「繋がり」が、いざというときに救急蘇生法を実施できる一般市民を増やすことになるのです。

私達の活動目標は、救急蘇生ができる一般市民を増やすことです。そして、その先の到達目標は香川県の救命率向上です。しかしながら、救命率向上の成果は目に見える形で現れてくることが少なく、客観的な評価はなかなか難しいところがあります。それでも、助かるはずの命が失われることを防ぐことに繋がれば、まさにこの上ない地域貢献になるのではないでしょうか。

【プロジェクト Y での BLS 講習会】

５．自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

一般市民向けの BLS 講習会を通して私達学生が受けた最大の影響は、教えることに対する責任感と自覚が以前にもまして強くなったことです。「教えることは覚悟すること」とは、東京の某大学入試予備校のキャッチフレーズですが、まさにそれを実感しております。私たちが教えているのは救急蘇生です。街中で人が倒れて心停止状態に陥っていたとき、救急車の到着までの間、その場に偶然居合わせた人（バイスタンダー）が患者の命を救うためにできることと、それが救急蘇生法（BLS）です。救急車が出動要請から現場に到着するまで、約 7.0 分（全国平均）。この時間は決して早いものではありません。患者が搬送先の病院から「歩いて」家に帰られるかどうかは、むしろ救急車が到着するまでの BLS にかかっているといっても、過言ではありません。それゆえ、私達学生インストラクターが講習会で万が一間違った方法を教えてしまった場合、そして、受講者が偶然救急蘇生の必要な現場に遭遇し、その間違った方法を信じて救急蘇生を実施した場合、助かるはずだった一つの命が助からなくなってしまう可能性すらあるのです。「教えることは覚悟すること」。質の高い講習会を実施するため、「自分の知識や手技が本当に正しいのか」「本当にこれを一般の市民に教えてもよいのか」「最新の医療情

報と矛盾したところはないか」などを自問自答し、常に知識や技術を向上していく自主性が必要とされます。こうした自主性は元々のインストラクターは勿論のこと、新たにメンバーに加わった新人インストラクターの中にもしっかりと根付いていることを、この1年で感じております。

他に、専門外の人にわかりやすく分かりやすく内容を伝えることの難しさを感じました。講習会に参加してくださるのは一般市民であり、医学のことは基本的にほとんど知りません。こうした人には対しては言葉ひとつが分かりにくさを生む原因になります。そのため、専門用語をなるべく使用せずに、一般市民が理解できるように伝えるにはどのようにしたらよいかを考えさせられました。こうした「分かりやすく伝える」能力は、今後医療者として患者様の前に立ったときに必ず必要となるものです。そうした点でも、この活動は非常に有益な活動であったと思います。

【大川商工会様対象の BLS 講習会】

6．反省点・今後の抱負（計画）・感想等

2004 年に AED の使用が一般市民に認められて 5 年、いまや AED は街のいたるところに散見されるようになりました。それが追い風となってか、AED はもはや一般常識となりつつあり、知らない人のほうが少数派になってきております。しかしながら、その実態は実際に使ったことも触ったこともない方がほとんどで、いざという時に冷静に対処できるのかどうか不安に感じています。そのため、その使用法についての講習会開催の要望が多く、実際に一般市民への活動を始めてみるとその声の大きさに驚かされます。こうした声に対して、医師や看護師、救命士の方々によって講習会が開催されてきていますが、これらの職種の方々は非常に多忙であるため、その負担は増加していく一方です。

このような状況に、少しでも学生が協力できればという思いも、活動理由の一つです。学生の活動は非常に小回りが利きます。受講生が何十人も集まる講習会も必要ですが、10 人程度で開催できるような活動なら、一般市民の方も参加しやすいのではないでしょうか。今年度は大人数に多く教える機会が多く得られ、その度、如何に受講者の実習時間を確保し、講習会の質を落とさずに開催するか、インストラクター間でも議論してきました。結果、やはり 10 人程度の少人数の方が受講者の実習時間を確保でき、実習を通して浮かんでくる受講者の質問にも丁寧に対応できるという意見が多く得られました。こうした利点を生かし、次年度は小規模 BLS 講習会を中心に展開していきたいと考えております。

一般の方々は、医学部生が BLS を行えるのは、当たり前のことだと思っています。そして、これから医学生に求められるのは BLS ができることのみならず BLS を指導できることであると思います。今後もこの活動を通して、一般の方々に BLS を広め、そして BLS を指導できる医学生をもっと増やせたら、うれしく思います。

【第 9 回学生 ICLS 講習会】

7．実施メンバー

代表者　鈴木　健太（医学科 4 年）

構成員　飯高　世子（医学科 6 年）
石垣　里沙（医学科 6 年）
石田　有美（医学科 6 年）
石橋　めぐみ（医学科 6 年）
大山　慶介（医学科 6 年）
尾崎　洋基（医学科 6 年）
阪口　喜寛（医学科 6 年）
田中　佐世（医学科 6 年）
千代　大翔（医学科 6 年）
中田　圭紀（医学科 6 年）
中野　安耶子（医学科 6 年）
橋本　真知子（医学科 6 年）
浜谷　英幸（医学科 6 年）
平林　紗江（医学科 6 年）
山崎　真理（医学科 6 年）
石田　ゆみ（医学科 5 年）
春日　武史（医学科 5 年）
加藤　禎史（医学科 5 年）
鏑木　直人（医学科 5 年）
阪口　正洋（医学科 5 年）
石田　ゆみ（医学科 5 年）
池野　世新（医学科 4 年）
香西　友佳（医学科 4 年）
鈴井　泉（医学科 4 年）
成田　萌（医学科 4 年）
新居　広一郎（医学科 4 年）
丸田　悠加（医学科 4 年）
本波　理香（医学科 4 年）
森田　幸子（医学科 4 年）
藤川　理恵（看護科 4 年）
吉山　沙織（看護科 4 年）
高見　康景（医学科 3 年）
大平　加代（善通寺看護学校 1 年）